

上小鴨神社

(若土)

祭神 すさのおのみこと 素戔鳴尊外十六柱 例祭日 四月十一日(現在は四月第一日曜日)



創立年代は不詳。古来^{けんみ} 剣見大明神[※]は若土三集落^{そうじがみ} 総氏神として、地方の^{そんすう} 尊崇厚く、明治元年(1868) 戊辰^{ぼしん} 10月 若土社^{しや}と改めた。明治5年(1872) 壬申^{みずのえさる} 2月 摂社^{※せつしゃてんじん} 天神の社を合祀し、郷社^{やしろ} 小鴨神社^{ごうし}の附属村社となった。同6年(1873) 4月更に同社の摂社と定められ、その後復興し独立した。大正元年(1912) 県の指導により村内各集落は神社の合祀の準備に入り、大正4年(1929) に生竹神社、山根神社(中田字トウフ山)、中田神社、谷口神社(耳)、福山神社、大鴨神社(石塚)、上古川神社の7社と、翌年に蔵内神社を合祀して、「上小鴨神社」と改め、上小鴨の^{うぶすなかみ} 産土神(総氏神)となった。

昭和3年(1928) 9月に村社に昇格する。

昭和4年(1929) 4月9日 神饌^{※しんせんへいはくりょうきようしん} 幣帛料 供進神社に指定された。

大正4年(1915) に実施された統合整理で、倉吉市内に98社あったものが、45社と半減した。上小鴨地区内では、上小鴨神社と広瀬神社の2社となった。

(注)

若土三集落：剣見、中村、机

摂社：本社に附属し本社に縁故の深い神をまつた神社の称

郷社：旧社格のひとつで府県社の下、村社の上に位置する。

神饌^{ほうけん} 幣帛：神に奉獻する、飲食物や布地などの供物